

<様式>

学 校 名	山形市立第二小学校	校 長	大沼 清司
		研究主任	加藤 裕樹
研 究 主 題	生き生きと表現し合い、くらしを豊かにする子どもの育成		
研 究 主 題 設 定 の 理 由	<p>本校では、「主体的に学び、豊かなくらしをつくる子ども」を主題に、これまで授業研究を行ってきた。課題を自分事として捉えられるよう、教材の開発や人との関わり、振り返りを大切にしながら授業づくりを続けてきた。特に人との関わりにおいては、地域材を活用し、生活科の町探検や、総合的な学習の時間などで、地域の方のお話を聞いたり、体験したりするような「本物に触れる」場を積極的に設定してきた。そのため、目的意識をもって学習することができる児童が増えてきている。それだけではなく、班やグループでの活動では、課題解決に向けて協働することで、友達と一緒に課題を解決しようとする意識や意欲は高まってきている。</p> <p>一方で、児童の課題について教員で話し合い、以下の実態が見えてきた。</p> <ol style="list-style-type: none">① 自身について振り返ることができないため、感じたことや考えたことを言語化できない児童がいる。② 相手の話を正しく理解できなかつたり、自分の考えを適切な言葉で表現することができなかつたりする児童がいる。③ 話し合い活動において、相手の話を聞いて満足してしまい、相手の意見に対して質問や意見が言えない児童がいる。④ 話し合い活動において、意見を発表する児童が固定化されてしまい、自分の考えを発表できていない児童がいる。 <p>これらのことから、「自分の考えをもつこと」や「話を正しく受け止め、自分の考えを相手に表現すること」が課題として明らかになった。</p> <p><u>全国学力状況調査の結果から</u></p> <p>国語では、「話し合いの中で、話の中心を捉え、適切にやりとりをすること」や「問題文の読み取り」に課題があった。算数では、「問題場面を表、式、グラフなどを用いて数学的に解釈したり説明したりすること」に課題があった。理科では、「問題に対して、自分の考えを持つことやそれを表現すること」に課題があった。</p> <p>これらのことから、各教科において、教師が捉えている実態や課題と共通点が多く見られた。</p> <p>社会の高度化、情報化、国際化などが進む現代の社会において、思いや考えを表現する必要性は増すばかりである。社会の中で自分や自分の生活をよりよくしていくためには、よりよく表現したり適切に受け止めたりする力を育成することが大切である。その素地を学校生活でも培っていきたい。自分の思いや考えをもち、相手や状況に応じて表現したり、友達の多様な思いや考えに触れたりすること（＝生き生きと表現し合う）は、仲間と学んだり協働したりする楽しさやよさを感じることにつながるだろう。その楽しさやよさを感じることができれば、将来自ら進んで自分のくらしに生かすことができるだろう。</p> <p>以上から、昨年度までの研究の成果である目的意識をもち、仲間とともに学ぼうとする児童の姿を大切にしながら、自分の考えや思いを表現し合うことで、自らのくらしをより豊かにすることができる児童を育成したいと考えた。そのため、本主題を設定した。</p>		

目的	<p>本研究では、生き生きと表現し合い、くらしを豊かにする子どもを育成していく。カリキュラムマネジメント表に位置付けた重点教科を中核にし、学年や学年部で授業をつくったり授業を参観したりすることなどを通して、主題に迫るために有効な手立てを明らかにし、共有することで、学校全体で子どもを育てていくことを目的とする。</p>																		
授業づくりのコンセプト	<p>自分の思いや考えをもつ 生き生きと自分の考えを表現するためには、まず、自分の思いや考えをもつことが大切である。「自分の考えをもつ」とは、様々な情報を吟味したり、既存の知識と関連付けたりしながら、自分の考えを構築することである。 児童一人一人が自分の思いや考えをもつことができるようになるためのポイントとしては、 ① 心が動いたり、自ら考えたくなくなったりするような活動の工夫。 ② 自分の感じたことや考えたことを言語化する場の工夫。 これらの2点とする。①については、見学や体験的な活動などで「人」「もの」「こと」と積極的に関わることが考えられる。②については、思考ツールなどを活用し思考を見える化すること、授業の終末の振り返りで思ったことや考えたことを継続して書き記すことが考えられる。 ①②の過程で、幅広い知識を身に付けたり考えを整理するなどの手立ての一つとして、ICTを積極的に活用していく。</p> <p>よりよく表現する 「よりよく表現する」とは、状況や相手に応じ、情報や言葉を吟味したり、適切な表現方法を選んだりして、表現することである。 よりよく表現するためのポイントとしては、 ① 表現する機会の工夫。 ② 伝えようとする気持ちの高め方の工夫。 ③ 表現する技術を高める工夫。 これらの3点とする。①については、話し合う必要感のある課題や単元構成を吟味することなどが考えられる。②については、安心して発言できる人間関係作りや自信をもって発言できるようスモールステップでの交流が考えられる。③については、各教科の特性を踏まえて使うべき知識や語彙、話型、話し合いの視点を明らかにすることなどが考えられる。</p> <p>以上の「自分の思いや考えをもつ」「よりよく表現する」ということに着目した授業改善を行う。</p>																		
方法	<p>カリキュラムマネジメント表の重点教科を中核にした授業研究 学年として力を入れて取り組むことを自分の思いや考えをもつの①②、よりよく表現するの①②③を参考に検討する。また、カリキュラムマネジメント表にも位置付ける。</p>																		
計画	<table border="1"> <tr> <td>4月5日</td> <td>研究推進委員会①</td> <td>概要、方法の検討</td> </tr> <tr> <td>4月12日</td> <td>研究全体会①</td> <td>概要、方法の共有、質疑応答</td> </tr> <tr> <td>6月～12月</td> <td>校内授業研究会</td> <td>提案授業、各学年の研究授業</td> </tr> <tr> <td>12月25日</td> <td>研究推進委員会②</td> <td>研究全体会②について、実践記録の編集について</td> </tr> <tr> <td>1月～</td> <td>実践記録集の編集</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2月</td> <td>研究全体会②</td> <td>今年度の振り返り</td> </tr> </table>	4月5日	研究推進委員会①	概要、方法の検討	4月12日	研究全体会①	概要、方法の共有、質疑応答	6月～12月	校内授業研究会	提案授業、各学年の研究授業	12月25日	研究推進委員会②	研究全体会②について、実践記録の編集について	1月～	実践記録集の編集		2月	研究全体会②	今年度の振り返り
4月5日	研究推進委員会①	概要、方法の検討																	
4月12日	研究全体会①	概要、方法の共有、質疑応答																	
6月～12月	校内授業研究会	提案授業、各学年の研究授業																	
12月25日	研究推進委員会②	研究全体会②について、実践記録の編集について																	
1月～	実践記録集の編集																		
2月	研究全体会②	今年度の振り返り																	